

大会時・コロナ禍での取組

・東京2020大会に備えて、早い段階から人の流れや競技の場所・時間に関する情報収集と、対策検討を開始

人の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- テレワーク・・・実施率約9割（管理本部で4～5人が出勤）現在は通常の勤務体制
- オフピーク通勤
- 会議等のオンライン化・・・社内外ともにオンライン会議。月に1回、全従業員を対象とした「和心サミット」を開催（スマホ等でも参加可）。後日、動画掲載で不参加者をフォロー
- 計画的な休暇取得の促進・・・大会開催時期に合わせて、連続した休暇取得を呼びかけ
- 書類等の電子化・・・一部電子化済み。店舗の売上等はPOSシステム（※）で把握
（※）販売時点情報管理：小売業の日々の売上や販売した商品をデータ化して管理するシステム

物の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- 受発注時期の調整
 - ・宅配業者からの遅延の説明を受け、リペアセンターやECサイトで通常より時間がかかること等を案内
- 受発注数量の調整
 - ・部署間での連携により、まとめて発送する取組みを開始
 - ・インターネットのスプレッドシート等の活用により発送時期を共有

取組ポイント

- テレワークやオフピーク通勤は現場に応じて各自の判断に委ねた
- 大会期間中の競技情報や交通規制に関する情報は随時共有
- 「和心サミット」で従業員全体の「見える化」を図り全国の各店舗を元気に
- 夏季休暇の計画的な取得促進

取組ポイント

- 店舗で出来る限りストックし、計画的に注文
- ECサイト等で事前に納期遅延等を案内
- 宅配事業者と連携し、一か月の物量や荷の規模等の見込みを伝え、配送を調整

今後の取組

人の流れ

継続して取組を実施予定
（2021年11月現在のヒアリング結果）

 テレワーク

現在は通常の勤務体制だが、IT関係等は1～2回/週のリモートワークを継続

 書類等の電子化

現在、押印による決済関係の電子化に向けて社内システムの変更検討を推進

 会議等のオンライン化

これまでメールやLINEが中心だった連絡や確認事項もオンライン会議で直接確認・共有

物の流れ

 宅配利用時など、まとめ配送等の検討

- ・配送数量を事前に宅配事業者と交渉・調整
- ・自社の倉庫との行き来はなるべく混載
- ・店舗にはできる限りまとめて配送

等

【東京2020大会を振り返って】

- ・東京都からの各種提供情報について、社内外で情報共有を行った。
- ・コロナ禍により、物自体が動かなくなっているため、倉庫に多くのものを保管しないで済んでいる。
- ・大会期間中はトラブルはなく、困ったこともなかった。
- ・有観客であれば、人が多く動き、店舗の売上も伸びると想定していたが残念だった。